さあ、また証しの旅へ
―元和（げんな）の大殉教400年を記念して―

日本カトリック列聖推進委員会　古巣　馨

旅はアブラハムから始まりました。さすらいではなく、神の約束と希望を頼りの信仰の旅でした。それでも飢えと渇きの難儀な旅路に、希望はかすみ信頼はついえそうになります。「さあ、目を上げて」（創世記13・14）、「起きて食べよ。この旅は長く、あなたには耐え難いからだ」（列王記上19・7）うずくまるたびに神に抱き起こされ、むやみな賭けは深い信頼へと変えられ、やがてイエスに至ります。「狐には穴があり、空の鳥には巣がある。だが、人の子には枕する所もない」（マタイ8・20）生まれたときから旅をすみかとしたイエス、十字架と死と復活への救いの旅の道連れはおん父のみ旨と聖霊でした。「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる」（同28・20）聖霊の同伴を約束されたイエスは、ご自分の教会を通して、全世界に福音を伝える旅へと弟子たちを送り出します。これが「ともに旅する（シノダリティー）教会」のゆえんです。時代に翻弄される漂泊ではなく、今も続く証しの旅なのです。

◆日本の教会のひな形
―いつくしみの証し―

ザビエルから始まった日本の小さな教会にははっきりとしたひな形がありました。「信じる者たちの心が一つになり、集まってパンを裂き、ともに祈り神の思いを学び、喜んで分け合う」（使徒言行録2・43－47参照）エルサレムの共に歩む最初の教会の姿でした。宣教師たちが伝え、貧しい人々が受けたのは「いつくしみの福音」でした。山口、大分に誕生した「慈悲の組」はまたたく間に全国に広がります。1571年、イエズス会と大村純忠によって開港した六カ町を含む岬の教会。貿易よりも戦乱の世からこぼれてくる命、宗教弾圧、飢餓、疫病、災害から逃れてきた難民を受け入れるための街でした。1583年、岬の街にミゼリコルディアの本部が置かれると、ハンセン病の療養所、7つの病院、孤児や高齢者の福祉施設が動き出します。どんな時代でも、愛は具体的で触れて確かめられるものです。「神の愛と同じ波長をもった」（『イエス・キリスト、父のいつくしみのみ顔』9項）神と人の情にあふれた教会がありました。

◆わたしの名のために
―殉教の証し―

愛は人を生き返らせ、真理は囚われ人の心を自由にします。イエスの福音によって顔を上げた貧しい人たちの勢いに戸惑った為政者は、にわか仕立ての権力で禁制と排除をもって対処します。1597年2月5日、西坂での26人の殉教は全国の諸大名、庶民への見せしめでした。さらに、家康に始まる江戸幕府も神道・仏教・儒教の三教一致からなる「神国・日本」に反するキリスト教を邪教とし、これを日本国民の「国是」としたのです。1614年2月1日、家康の側近金地院崇伝（こんちいんすうでん）が起草した「排吉利支丹文（伴天連追放文）」が残っています。将軍秀忠の朱印を捺（お）して「日本国中の諸人がこの旨を存ずべき御掟」として公布されました。

「日本は神国・仏国にして神を尊び仏を敬ひ、仁義の道を専らにし、善悪の法を匡（ただ）す、……かの伴天連の徒党、みな件（くだん）の政令に反し、神道を嫌疑し、正法を誹謗し、義を残（そこ）なひ、善を損なふ。刑人あるを見れば、すなはち欣（よろこ）び、すなはち奔（はし）り、自ら拝し自ら礼す。これを以て宗の本懐となす。邪法に非ずして何ぞや。実に神敵仏敵なり。急ぎ禁ぜずんば後世必ず国家の患（うれ）ひあらん。…」（『日本思想大系25』）

1614年11月、多くの宣教師、神学生、都の比丘尼（びくに）（修道女）、高山右近など信徒の重鎮はマニラ、マカオに追放されます。このとき4つの修道会と教区合わせて45人の司祭と同宿・小者100人余りが潜伏し殉教の教会に仕えます。この禁令の背後に、教会内部での贈収賄にからむ「岡本大八事件」という、旅する教会が抱える人間の脆弱（ぜいじゃく）さが要因の一つになっていたことも事実です。こうして、教会は「耐えがたく長い苦難の旅」へと入って行くのです。1616年4月、家康の死去にともない後継となった秀忠は1616年（元和2年）8月8日、禁教と外国船入港に関する法令を出し、より過酷なキリシタン禁制を再開していきます。1615年7月から1624年2月までを元和年間と呼びます。この間に起きた京都での殉教（1619年10月6日、52人）、長崎での殉教（1622年9月10日、55人）、江戸での殉教（1623年12月4日、50人）をもって「元和の大殉教」と呼びます。

「そのとき、あなたがたの名のために、あなたがたはあらゆる民に憎まれる」（マタイ24・9）なぜか大殉教は、時代の大きな転換期に起こっていることが分かります。26人の殉教は秀吉による朝鮮侵略のとき、元和の大殉教は海外貿易統制のとき、島原の乱は完全な鎖国敢行のとき、浦上四番崩れは近代国家樹立と人権・信教の自由獲得のとき。混沌と闇の中に「光」（創世記1・1－3参照）を垣間見せる殉教は、時代とともに旅する教会の預言者としての証しです。その光は人間らしさを回復させます。

◆受けて手渡して
―育まれた信頼の証し―

元和年間に追放された宣教師の23人が再潜入し戻ってきています。1620年6月26日、イギリス・オランダ防衛艦隊に台湾沖で拿捕（だほ）されたヨアキム平山常陳の朱印船が曳航（えいこう）され平戸に入港します。乗組員の中にアウグスチノ会のズニガ神父、ドミニコ会のフローレス神父が商人に変装し入国を図ったのです。この事件が松浦藩と江戸幕府を巻き込み、さらにはポルトガル・スペインに変わる貿易販路の国際紛争、鎖国体制への方向転換の契機となります。長い詮議の末、二人の密航者は宣教師であることが判明します。ときの長崎奉行長谷川権六は、秀忠の見せしめの沙汰に従い、1622年8月19日密航関係者3人の火あぶりと12人を斬首。そして9月10日、それまで大村・鈴田牢にいた25人の司祭・修道者と長崎市内で投獄されていた宣教師を匿った宿主やその家族30人を西坂で処刑したのです。この時も1619年7月に潜入したドミニコ会士ディエゴ・コリャドの強引な宣教師奪還計画と元教区司祭・荒木トマスの密告など、脆弱さと不和を抱える教会の姿をさらけ出すことになります。

まず30人が斬首、その首は火あぶりになる司祭・修道者たちに向けられ台に据えられました。火あぶりは薪を遠くに備え時間をかけ棄教へと誘う狡猾な拷問を兼ねたものでした。

ザビエルが平戸に逗留したとき世話してくれた木村家の出身で、日本人最初の司祭セバスチアン木村が西坂に護送されるとき、一人の信徒は形見にと履物の角を切り取っています。イエズス会士スピノラの宿主ポルトガル人ドミンゴの妻イザベルは、4歳の息子イグナシオとともに長崎の牢から刑場に到着しました。すでに柱につけられたスピノラを見て、イザベルはわが子を抱き上げ叫びました。「ほら、見てごらん。あの人はあなたを神の子にした神父ですよ」スピノラは小さく頷き祝福しました。また、火あぶりになったドミニコ会士モラーレスとオルファネルは、1608年11月17日薩摩川内の京泊で殉教したレオ税所七右衛門に福音を伝え、洗礼を授け、その3カ月後に殉教を見届けた司祭たちです。「信仰者は、信仰を他の人から受け取りました。それを他の人に伝えなければなりません」（『カトリック教会のカテキズム』166項）羊の匂いのする司祭と、羊飼いの声を聞き分ける信徒が見せた深い信頼によって結ばれた教会の姿がありました。『キリストに倣いて』『霊操』『マルチリヨの理（ことわり）』、黙想によって神との親しさを育み、ぶれることのない自立した信仰をもった信徒たちがそこにいました。

◆繰り返し選び直す人たち
―聖霊の協力者の証し―

元和の大殉教の最中、1622年3月12日ローマの聖ペトロ大聖堂ではフィリッポ・ネリ、マドリッドのイシドロ、ロヨラのイグナチオ、フランシスコ・ザビエル、アビラのテレジアが列聖されています。また日本では同年9月7日から27日まで、ドミニコ会士コリャドによって西坂の26人の殉教者列福調査が行われ、1627年、福者の列に加えられています。ペトロ岐部がルパング島から日本に向けて出帆したのは、26人の列福の知らせを受け取った直後でした。「恵みの風が吹きます。信頼の帆をいっぱいに広げて船出します」（1630年6月12日、ルパングよりペトロ・カスイの手紙）

司祭のいない長く耐えがたい潜伏の教会にとって、列聖・列福の知らせは信仰の旅の慰めと力になりました。そして、「信徒発見」（1865年3月17日）を前後して、教皇ピウス9世は、1862年6月8日、26殉教者を列聖、信徒発見の2年後67年7月7日、長崎の元和大殉教の52人を含む205殉教者を列福しています。

「ワレラノムネ　アナタノムネト　オナジ」あの日、浦上キリシタンの信仰告白は父と子と聖霊の交わりから始まった「ともに旅する教会」が受けて、手渡してきた「オナジ」信仰の証しでした。彼らは、苦難のたびに「ただひたすら神を選び、幾度も幾度も神を選び直して」（『喜びに喜べ』15項参照）きた人たちです。どんなときも「ともに旅する教会」に同伴してきた聖霊の絶妙な仕掛けに、今も息をのみます。

「昔も今も聖人たちの役割ははっきりしています。傷みかけた教会を修復し、人々のうめきに応えて働く聖霊のささやきに静かに耳を傾け、その協力者となり、心底仕えて生きることです」（教皇フランシスコ「教皇ヨハネ23世、教皇ヨハネ・パウロ2世の列聖式ミサ説教」）

ザビエルの列聖と元和の大殉教から400年。さあ、またオナジ心で証しの旅路に就きましょう。

カトリック教報

カトリック長崎大司教区
広報委員会
〒852－8113
長崎市上野町10－34
カトリックセンター内
TEL 095－843－3869
FAX 095－843－3417
振替口座 01880－5－2699
発行人
山田良秋
印刷所
株式会社 インテックス

元和の大殉教400年

今年9月10日は、「長崎の元和大殉教」400年に当たります。長崎教区は同日13時から西坂公園で式典を、14時から中町教会でミサを予定しています。新型コロナの影響下、参加には制限が設けられますが、この日を心にとめてお祈りください。

ほしかげ

セミが、夏になってきたことを歓呼の歌で迎えています。セミは幼虫として7年くらい地面の下40cmくらいのところで生息します。その後地面の上に上がってきて約1カ月くらい生きて生を終えます▲7年間の忍苦の時間を過ごすことに比べ、成虫としての時間は非常に短いです。セミが鳴く理由は雌を誘惑するためですが、今年は何となく違うように聞こえてきます。非常に短い間、地上を旅する人間の何かを伝えようとする叫び声に聞こえてきます。一昨年前からミャンマーでのクーデター、ロシアとウクライナの間の戦争で世界は平和を失ってきているような気がします。まだその状況でたくさんの人が犠牲となっている中、セミの鳴き声がまるで「平和になろう」という叫びに聞こえてくるのです。平和というのは単に静かな状態ではないでしょう。何かを実現しようと正しいことをしようとする、非常ににぎやかな状態です▲セミは夏でも雨の中、暴雨では気温が下がるため、鳴くことができないそうです。セミは気温、体温が上がるほど、より遠いところまで鳴き声が響くそうです。ロシアとウクライナの戦争でたくさんの人が犠牲となり、ミャンマーでは自由が奪われています。今、やっと地上で鳴き始めた私たちもこの世をより熱く、自分の心を熱くする時期ではないかと、セミの鳴き声を聞きながら今日も平和を祈ります。（南）

TENREI Liturgy TENREI Liturgy TENREI

ミサの式次第の新しい表現④

――「朗読者」の場合

日本カトリック典礼委員会　嘉松 宏樹

今年の待降節第1主日から用いられる、新しい「ミサの式次第」。「朗読者」としてミサをささげるにあたって新しくなる点と、朗読奉仕についての留意点を、主日のミサを想定してご紹介いたします。なお、ここで「朗読者」とは、小教区で一般的な、選任された朗読奉仕者ではない臨時の朗読奉仕者を指しています。

朗読者の準備

ミサの聖書朗読について説明した『朗読聖書の緒言』（以下『緒言』）によれば、朗読者の準備には「霊的な準備」と「技術的な準備」があります。「霊的な準備」は少なくとも「聖書」と「典礼」を学び続けること（『聖書と典礼』というリーフレットはまさにそのために編集されている資料のひとつです）、「技術的な準備」は朗読の仕方やマイクロフォンの取り扱いを覚えることなどです。大変要求が高い印象を受けますが、要は、神さまからの手紙を読んで皆さんにお伝えする、ということです。

朗読の準備

聖書朗読の箇所は典礼暦に応じて配分されています。『毎日のミサ』や『聖書と典礼』を参照なさるかたも多いと思いますが、主日は3年周期で構成されており、正式には毎年発行される『教会暦と聖書朗読』（カトリック中央協議会）に掲載されます。

朗読するのは、「表題」（たとえば、「イザヤの預言」「使徒パウロのコリントの教会への手紙」など）、「冒頭句」（たとえば、「そのとき」「みなさん」）、そして「本文」です。聖書そのものを用いて朗読の準備をする場合は、朗読のための表題が聖書の書名（たとえば、「イザヤ書」「コリントの信徒への手紙」）と異なることがありますので注意が必要です。『教会暦と聖書朗読』には「聖書の書名と朗読時の表題」の一覧が掲載されています。冒頭句は、聖書から選ばれた朗読箇所が、その場で語られるみことばとして伝えられるために付け加えるもので、文脈を示すためにも用いられます。教会宛の書簡であれば「みなさん」、特定の弟子宛の手紙であれば「愛する者よ」といった使い分けもあり、これも『教会暦と聖書朗読』に掲載されています。本文については、聖書では代名詞になっている部分をもとの名詞に戻して読む必要があることもあります。

なお、典礼で用いる日本語の聖書は、現在、『聖書　新共同訳』と定められています。

朗読聖書

朗読に用いるのは『主日の朗読聖書』です。『緒言』には、「祭儀で用いられる朗読聖書は……信者用の印刷物などで代用することがあってはならない」（37）と規定されています。大切な食事の場では食器にもこだわるように、神のことばを大切にするしるしとして製本された朗読聖書を用います。『主日の朗読聖書』は朗読のために右記の表題や冒頭句、代名詞の編集が済ませてありますので、安心して読むことができます。

朗読聖書は、朗読者が手に持って朗読台に向かうのではなく、ミサの初めから朗読台に準備しておきます。文章の配置や改行の位置が変わると不安な場合は、準備（練習）のときから実際にミサの中で読む朗読聖書を借りておき、ミサの前にご自身で朗読台に置くようにするとよいでしょう。

朗読奉仕の舞台

朗読奉仕の舞台は朗読台です。朗読台はみことばの食卓と呼ばれ、聖体の食卓である祭壇と一対のものです。かつて書簡と福音を別の朗読台で朗読していた名残から二つの朗読台が設けられている教会堂があるかもしれませんが、ミサのために用いる朗読台は一つだけにするのが望ましいでしょう。会衆席から内陣に向かう朗読者は、正面中央から上り、祭壇に一礼して朗読台に向かいます。動線が司式者の前を横切る場合は司式者に一礼するのが自然です。朗読者の席が内陣に用意されていて、ミサの間ずっと内陣にいるようでしたら、朗読者は典礼奉仕者の服装であるアルバを身につけるとよいでしょう。

朗読の終わり

新しいミサの式次第の実施にあたって、共同体によっていろいろな習慣があった朗読の終わり方が共通のものに整えられました。**第一・第二朗読の終わりに、朗読者は手を合わせて、はっきりと「神のみことば」と唱えます。すると一同は「神に感謝」と答えます。続いて、朗読者は聖書に一礼して席に戻ります。一同は沈黙のうちに、神のことばを味わいます。**朗読者は「神のみことば」と唱えてすぐに朗読台を離れるのではなく、一同の答えを聞いてから会衆ではなく「聖書に」一礼し、自分の席に戻ることになります。一同が沈黙のうちに神のことばを味わうため、答唱詩編やアレルヤ唱・詠唱は、朗読者が自席に戻り、間を取ってから始めるようにします。

朗読者のよい奉仕のためには、会衆の聴く姿勢も大切です。聴覚が不自由なかたや日本語が苦手なかたは『聖書と典礼』を目で追いながら聴くこともあるでしょう。文字を追わなくても聴くことができる場合は、顔を上げて耳を澄ます姿勢を意識したいものです。

（次回は「オルガニスト」の場合です）

新しい「ミサの式次第」

教区信徒向け小冊子について

今年の待降節第1主日（11月27日）から新しい「ミサの式次第」が用いられます。これに合わせ長崎教区信徒向けの小冊子が教区から発行される予定となっています（本紙2022年6月号既報）。現在、発行のための準備が進められています。

小冊子の販売にあたっては各小教区を通してお知らせいたしますので、教会でのお知らせいたしますので、教会での今後のご案内を確認してくださいますようお願いいたします。

世界代表司教会議（シノドス）

ともに歩む教会のために

わたしたちの今後の歩み

「ともに歩む教会のため―交わり、参加、そして宣教―」をテーマにした2023年10月開催の世界代表司教会議（シノドス）第16回通常総会は、21年10月から23年10月まで三つの段階（地方教会、大陸・地域、世界代表司教会議）に分かれた、一つの大きな歩みとして行われる。7月現在は「地方教会レベル」の過程にある。

昨年9月に教皇庁シノドス事務局が全世界の教会に対して送った10の質問に、長崎教区は当初、小教区、地区という段階を経ながら回答をまとめてきた。しかし今年3月、7年前に行われた教区シノドスの提言に、今回の回答を加えたものを長崎教区としてのまとめとすることを決定し（本紙4月号既報）、最終的に6月3日、カトリック中央協議会にまとめを提出した。

日本カトリック司教協議会シノドス全国担当の菊地 功大司教（東京大司教区）は、日本の全16教区から回答が寄せられたことに対し、6月27日付で「回答の御礼」を伝えた（全文は中央協議会ウェブサイトで閲覧可）。その中で、「皆さまから寄せられた意見書は司教団として最終文書にまとめ、キリスト教諸教会の方々の意見も伺いながら、7月に行われる司教総会で採択され、日本の教会の意見として教皇庁シノドス事務局へと送る予定です。（中略）今後も各教区で、各小教区共同体で『ともに歩む』シノドス的教会の姿を探し求めていただきたいと思います。わたしたちの歩みはこれからも続きます」と述べている。

長崎教区は今後、7年前の教区シノドス後に設置された「教区シノドス提言推進会議」で話し合いながら、長崎教区全体でシノドス的教会の歩みを模索していく。同会議は7月31日（日）15時から大司教館で開催。

2022年 四旬節愛の献金

総額 5,312,586円（6月9日現在）

上記献金の他、直接カリタスジャパンへご送金いただいている分もあります。

皆様のご支援、ご協力に心から感謝申し上げます。

カリタスジャパン長崎支部

十主の平安

株式会社 五島式典社（斎場）五島中央会館 奈留会館

代表取締役　ヨゼフ　浦　昭

24時間営業

五島市上大津町 1385 番地 1　TEL (0959) 74－5551　FAX (0959) 74－5552

五島市奈留町浦 1899－1　TEL (0959) 64－3101　FAX (0959) 64－3102

石碑
文字彫刻
墓地工事
リフォーム
墓地分譲

ながさきせきちょう
長崎石彫
ヨゼフ　岩永　貴弘
☎(095)862-2469
長崎市花園町 23-17 立岩公園前

CALIS Catholic Life Service
カリス通信 8月号
カトリック火災共済制度のご紹介

「カトリック火災共済制度」は、教会、修道院、学校、幼稚園、病院等のカトリック系関連諸施設を対象とした火災保険（火災共済）です。火災保険で補償されるリスクをご案内します。

●火災・落雷・破裂・爆発
漏電による火災や、落雷により建物が被害を受ける事故が増えています。建築費が高騰しており、電気設備や屋外設備の復旧費用は高額となることから、十分な備えが重要です。
長年にわたって火災共済の評価金額を見直していない場合は、万が一の際に支払われた保険金で再建できない可能性があります。ぜひ、カリスにご相談ください。

事故例：落雷で門扉電気錠等が損傷。修理費 120万円
外部配電盤より出火。修理費 34万円

●風災・雹災・雪災
近年、大型台風等による屋根、ステンドグラス、ドアなどの破損事故が増えています。台風などが来る前の点検や、屋外設置物の固定などの対策をおすすめします。

事故例：強風により教会屋根の十字架が破損。修理費 101万円

●水災事故
豪雨による河川等の氾濫による浸水被害だけでなく、都市部においても、局地的な集中豪雨により排水能力を上回ったために浸水被害を受けるケースがみられます。

事故例：強風で防水シートが剥がれ、修理費 816万円

「カトリック火災共済制度」では、水災の補償はオプションです。ご契約内容をご確認ください。

※ 本ご案内は「カトリック火災共済制度」の概要をご紹介したものです。ご契約にあたっては、必ず「重要事項説明書」をお読みください。

カトリック共済システム 有限会社カリス　〒135-8585 東京都江東区潮見 2-10-10 日本カトリック会館
連絡先 0120-77-0033
カトリック共済システム 検索　22-TC02171
引受保険会社：東京海上日動火災保険株式会社
リスク・補償に関してお気軽にお問い合わせください

2021年度決算に関する報告　カトリック長崎大司教区

単位：円

〔収入の部〕

科　目	決算額
1．経常収入の部	400,494,050
教区費	116,580,237
信　徒	101,760,237
司　祭	9,510,000
修道会	5,310,000
特定献金	26,051,326
神学生養成援助費（封筒）	10,435,006
世界広報の日献金	1,366,087
聖ペトロ使徒座への献金	5,958,783
世界難民移住移動者の日献金	1,840,108
世界宣教の日献金	1,832,688
宣教地召命促進の日献金	1,839,301
世界こども助け合いの日献金	2,779,353
特別献金	34,353,570
寄付金	17,906,580
献金収入（本部関係）	7,526,530
ミサ献金（ビナチオ・トリナチオ）	8,920,460
諸委員会活動費	3,371,286
(1) 信仰養成部	817,420
信仰教育委員会	23,680
生涯養成委員会	660,040
青少年委員会	0
信仰養成部	133,700
(2) 福音化推進部	0
人権委員会	0
福祉委員会	0
平和推進委員会	0
エキュメニズム・諸宗教委員会	0
福音化推進部	0
(3) 召命委員会	0
(4) 典礼委員会	2,000
(5) 家庭委員会	1,256,000
(6) 広報委員会	1,292,500
(7) 教区本部事務局	3,366
(8) 教会歴史文化遺産評議会	0
(9) 子どもと女性の人権相談室	0
その他の収入	220,137,631
受取利息	404
非課税事業収入	3,207,721
小教区拠出金	211,218,347
雑収入	5,441,159
裁判所手続費納入金収入	270,000

科　目	決算額
2．経常外収入の部	117,092,249
繰入金収入	117,092,249
国宝保存委員会	20,000,000
運用基金会計	39,000,000
大司教・司教活動資金会計	7,500,000
司祭年金会計	1,221,000
不動産取得資金会計	990,000
アカデミー基金会計	5,000,000
退職給与引当金会計	1,032,000
預り金等収支差額	42,349,249
3．前年度繰越金	51,877,255
収入の部合計	569,463,554

〔支出の部〕

科　目	決算額
1．経常支出の部	506,064,370
宗教活動費	12,957,959
祭儀費	1,628,721
特別行事費	8,364,874
助成金（小教区）	1,751,323
教区評議会	1,213,041
諸委員会活動費	8,576,424
(1) 信仰養成部	1,230,248
信仰教育委員会	120,615
生涯養成委員会	764,076
青少年委員会	44,423
信仰養成部	301,134
(2) 福音化推進部	350,495
人権委員会	308,484
福祉委員会	0
平和推進委員会	26,110
エキュメニズム・諸宗教委員会	0
福音化推進部	15,901
(3) 召命委員会	244,620
(4) 典礼委員会	48,116
(5) 家庭委員会	1,008,901
(6) 広報委員会	4,776,493
(7) 教区本部事務局	917,551
(8) 教会歴史文化遺産評議会	0
(9) 子どもと女性の人権相談室	0

科　目	決算額
負担金	16,698,632
カトリック中央協議会	9,556,145
使徒座	6,542,487
心のともしび	600,000
神学生養成費	74,289,866
福岡カトリック神学院	39,627,066
長崎カトリック神学院	22,000,000
福岡コレジオ	9,672,000
大神学生諸経費	110,800
奨学金返還	2,880,000
司祭生涯養成費	3,147,700
黙想研修会	357,450
海外留学費	2,790,250
不動産管理費	1,848,439
管理費	1,544,385
租税公課	304,054
人件費	299,360,353
聖職者（本部関係）	32,797,320
聖職者（小教区）	165,420,000
引退司祭	22,027,120
職員（本部関係）	36,184,280
職員（小教区）	42,931,633
福利厚生費	37,791,986
法定福利費（本部）	32,146,654
法定福利費（小教区）	2,866,714
福利厚生費	23,580
福利厚生費（医療費）	1,228,642
医療共済制度（カリス）	1,526,396
維持管理費	19,615,213
大司教館	13,201,028
カトリックセンター（管理部門）	6,414,185
事務費	25,924,630
教区管理費	25,092,493
法人事務所	62,137
長崎教会管区裁判所	770,000
その他の支出	5,853,168
退職給与引当金繰入支出	4,263,500
非課税事業支出	1,589,668
2．経常外支出の部	2,990,000
財務支出	2,990,000
奨学金会計	2,000,000
不動産取得資金会計	990,000
3．次年度繰越金	60,409,184
支出の部合計	569,463,554

会計に関する報告

教区会計　岩本 繁幸

宗教法人カトリック長崎大司教区の収支決算書および財産目録が、6月13日開催の教区顧問会で承認された。

新型コロナウイルスの影響により、大浦天主堂への拝観者が激減し、拝観料はコロナ以前の4分の1以下に落ち込んだ。これまで大浦天主堂拝観料に依存し過ぎてきた教区運営であったがゆえに、特別会計を取り崩さないと運営できない状況となってしまった。

また、前教区会計による会計上の重大な不手際が明らかになったことに伴い、教区会計のあり方改善を進めているが、詳細は以下に記述する。なお、損失分については、前教区会計からの回収金、前教区長、および顧問団（当時の顧問も含む）による補てん金、および教区司祭などによる自主的な寄付金などの収入により貸倒引当金を設定しているが、6月30日現在での金額は後述（囲み）の通りである。

教区本部における改善の取り組みについて

①事務処理の適正化のために、経理の方針をルール化して明文化したこと
②お金が支払われる時には文書にて稟議をあげ、金額に応じた決裁権限者の決裁を得なければならないこと
③毎日現金の実際有高を把握し、上長が確認すること
④会計監査員に、司祭だけでなく信徒も加えたこと
⑤各特別会計の性質に応じて、目的・財源・運用リスクの許容などを明確にすることなどにより、教区会計のあり方改善を進めている次第である。

小教区における対応のお願い

①主任司祭取扱分会計における信徒の監査
各教会の主任司祭取扱分の会計（献金会計）においても、相互確認の観点から、信徒による監査の実施をぜひともお願いしたい。

②財産目録の作成
昨年度、法人会計事務室に残されていた過去の財産目録データを基に、各小教区の財産目録を作成していただいた。限られた時間の中で、財産目録の作成に携わってくださった多くの方々に感謝申し上げたい。
ただし、そのルールを定めた「不動産管理の手引き」（1986年発行）については、現在に合うような改訂も必要と考えており、さらなる向上を目指していきたい。

③「事務実践の手引」の改訂
法人会計事務室と各教会とが相互に協力し合いながら宗教活動を行っていくためには、共通のルールが必要である。その認識を共有するために「事務実践の手引」（2010年発行）が存在しているが、12年を経過した現在、改訂版の必要性を感じている。法人会計事務室に納付する内容や方法、提出する書類、税や社会保険に関すること、法人押印の依頼、その他について書かれた本手引については、本年度中に最新版を改訂し、各教会に説明を行いたい。

以上3項目に関しては、来年1月頃を目途に各地区を巡回して説明会の開催を実施したいと考えているので、その時には主任司祭および会計担当者の皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。

最後に、コロナ禍の苦しい中にあっても、長崎教区を支えてくださる信徒お一人おひとりには感謝しかありません。皆さま本当にありがとうございます。

前教区会計・前教区長・顧問団による補てん金　2832万1457円
教区司祭や信徒らによる自主的な寄付金　1285万円
合計　4117万1457円
（2022年6月30日現在）

2021年度決算に関する報告　72小教区決算集計表

単位：円

〔収入の部〕

科　目	決算額
1．経常収入の部	1,023,833,486
宗教活動収入	749,077,093
教会維持費	378,114,001
ミサ献金	66,883,551
ミサ奉納金	179,781,299
祭儀献金	45,858,539
寄付金収入	40,812,768
教区補助金	4,248,120
その他の献金	28,168,935
行事収入	2,956,994
非課税事業収入	2,252,886
維持管理収入	105,670,693
積立金収入	89,023,861
墓地納骨堂管理費収入	16,646,832
預り金・献金収入	139,011,450
教区費	98,689,420
神学生養成援助費（封筒）	9,970,938
世界こども助け合いの日献金	979,242
世界広報の日献金	1,062,717
聖ペトロ使徒座への献金	1,753,516
世界難民移住移動者の日献金	1,794,299
世界宣教の日献金	1,782,299
宣教地召命促進の日献金	1,730,293
特別献金	1,512,862
一粜募金	5,537,586
クリスマス募金	4,680,564
カリタスジャパン募金	6,356,862
その他の募金	3,160,852
その他の収入	30,074,250
受取利息	191,590
雑収入	29,882,660
2．経常外収入の部	260,891,946
資産運用収入	12,500
資産運用収入	12,500
繰入金収入	130,426,570
特別目的預金取崩収入	105,602,381
その他の繰入金収入	22,871,491
修理費積立金収入	1,952,698
借入金収入	92,601,550
内部借入金収入	92,601,550
その他の収入	37,851,326
預り金収入	4,944,401
補助金収入	590,000
その他の経常外収入	32,316,925
3．前年度繰越金	966,323,961
収入の部合計	2,251,049,393

〔支出の部〕

科　目	決算額
1．経常支出の部	874,061,613
宗教活動支出	330,449,112
祭儀費	45,938,282
教化費	25,607,684
補助金支出	20,593,409
寄付金	12,243,139
図書費	4,593,481
出版刊行費	5,195,229
行事費	17,876,052
負担金	23,503,375
会議費	2,434,792
消耗品費	22,216,780
リース料	15,896,530
通信費	12,443,415
旅費交通費	6,914,051
自動車諸費	18,823,087
水道光熱費	75,462,071
接待交際費	14,987,589
非課税事業支出	1,409,405
支払手数料	4,310,741
維持管理支出	112,785,993
修繕費	60,420,625
保守管理費	19,656,154
墓地納骨堂管理費	4,622,727
保険料	27,611,843
公租公課	474,644
人件費	266,899,983
給与手当	222,853,859
雑給与	30,942,588
退職金	121,414
福利厚生費	9,870,010
法定福利費	3,112,112
預り金・献金支出	148,702,530
教区費	99,913,625
神学生養成援助費（封筒）	9,991,498
世界こども助け合いの日献金	1,267,029
世界広報の日献金	1,299,836
聖ペトロ使徒座への献金	1,803,575
世界難民移住移動者の日献金	1,847,777
世界宣教の日献金	1,863,154
宣教地召命促進の日献金	1,776,750
特別献金	6,128,862
一粜募金	5,549,143
クリスマス募金	4,768,680
カリタスジャパン募金	6,337,627
その他の募金	6,154,974
その他の支出	15,223,995
雑費	15,223,995
2．経常外支出の部	287,570,587
資産取得支出	75,444,972
土地取得支出	1,383,611
建物取得支出	31,168,014
構築物購入支出	27,225,678
器具備品購入支出	15,667,669
繰入金支出	150,052,427
退職給与引当金繰入支出	940,000
特別目的預金積立金繰入支出	128,963,614
修理費積立金支出	993,013
建設積立金繰入支出	19,155,800
借入金返済支出	12,448,514
内部借入金返済支出	9,000,000
外部借入金返済支出	3,448,514
その他の支出	49,321,172
預り金支出	4,935,062
その他の経常外支出	44,386,110
予備費	303,502
予備費	303,502
3．次年度繰越金	1,089,417,193
支出の部合計	2,251,049,393

	2020年度	2021年度
世帯数	17,398	17,308
①維持費／世帯数／月	1,819	1,821
②教区費／世帯数／月	471	475
③教区費／維持費（%）	25.9	26.1
④ミサ奉納金／世帯数／月	821	866
⑤ミサ献金／世帯数／月	322	322

教区顧問会 行われる

2022年度第1回教区顧問会が6月13日（月）大司教館で開催された。

主な審議事項は、まず、2021年度収支決算書および財産目録に関し、6月4日に教区経済問題評議会で審議された結果を反映させたものが審議され、了承された。「大司教・司教活動資金特別会計規程」「退職引当金特別会計規程」も承認された。次に、丸尾、馬込、太田尾、宝亀、大崎の各小教区から提出された土地関係や改修工事などの申請が承認された。また、大瀬戸小教区の閉堂についても承認され、その日時は大司教、主任司祭、長崎北地区長で協議の上、決定することとなった。その他、教区施設統廃合検討チームの決定を承認（5面に関連記事）、特別教区シノドスを通して今後の教区シノドス提言推進の方向性を確認した。

主な報告事項としては、元和の大殉教400周年記念に向けての準備、および新しいミサ式次第（長崎教区信徒用）についての進捗状況などが報告された。

司祭評議会　司教の諮問機関としての司祭団代表者会議。「司教に委託された神の民の一部分の司牧的善益を最も効果的に促進するため、法律の規定に従って、教区統治において司教を助けることをその責務とする。」（『新教会法典』第495条第1項）

顧問会　法律上定められた任務に関して権限を有する顧問団による会議。教区司教は、司祭評議会の会員のなかから6名以上12名以内の司祭を自由に任命し、任期5年の顧問団を構成する。（『新教会法典』第502条第1項参照）

司教の諮問機関 第1回司祭評議会 開催

中村倫明大司教が長崎教区に着座して初めての司祭評議会が、6月9日（木）10時から大司教館3階第1会議室で、一部の評議員はリモートで参加して開催された。

教区司教の交代により新たに司祭評議会が立ち上げられ、そのメンバーが大司教によって承認された。大司教以外の評議員は、司教総代理、本部事務局長、法務代理、教区会計、書記官、長崎カトリック神学院長、信仰養成部長、福音化推進部長、そして7地区から地区長と互選議員、現在は計21人で構成される。

次に、司祭評議会規約の修正と新役員の選任について審議された。規約の修正箇所が多数指摘され、再度精査の上、次回の司祭評議会で承認を図ることとなった。新役員もその時選任される運びとなり、それまでは以前の役員が継続することとなった。また、福音化推進部長・紙﨑師からの提案「旧『黙想の家』を『ミゼリコルディア長崎』本部へ」（案）について審議があった。各地区司祭団から多くの意見が寄せられ、福音化推進部で今回の意見を整理して話し合い、再度議案を提出する運びとなった。

今年度の司祭研修会について、研修会は10月と2月の2回実施し、テーマに関しては顧問会で話し合いを進めていくこととなった。さらに、出津小教区主任司祭・下山師から巡回教会の大瀬戸教会閉堂の願いがその経緯と共に提出され、閉堂が承認された。

報告事項としては、①元和の大殉教400周年記念祭（2022年9月10日）に向けて、②教区施設統廃合関連に関する報告と今後について（教区本部事務局と会計事務所の移転と、会議機能の検討については今年度1年かけて行い、来年度の実施を図る）、③特別教区シノドスの今後について、それぞれ報告された。

次回司祭評議会は、2022年11月11日（金）10時から大司教館で行われる。

司祭評議会の参加者

主宰者…中村倫明大司教
評議員…山脇 守師（司教総代理・長崎北地区長）、中濱敬司師（本部事務局長・信仰養成部長）、古巣 馨師（法務代理）、岩本繁幸師（教区会計）、中野健一郎師（書記官）、松田聡史師（長崎カトリック神学院長）、紙﨑新一師（福音化推進部長）、久志利津男師（長崎中地区長）、葛嶋秀信師（長崎南地区長）、山内 実師（佐世保地区長）、山村憲一師（平戸地区長）、眞浦健吾師（上五島地区長）、中村 満師（下五島地区長）、ポウォムスキ・スタニスワヴ師（長崎中地区代表司祭）、大水文隆師（長崎南地区代表司祭）、下山盛朗師（長崎北地区代表司祭）、浅田照明師（佐世保地区代表司祭）、大山 繁師（平戸地区代表司祭）、青田憲司師（上五島地区代表司祭）、工藤秀晃師（下五島地区代表司祭）

カトリックセンター
小神学校など

教区施設統廃合について

今後の「大きな方向性」決まる

昨年12月から今年3月にかけて、長崎教区施設統廃合検討チーム（座長・中村倫明大司教）が「長崎大司教区の信者の皆様へ」回答協力を呼び掛けた「教区施設統廃合検討に関するアンケート」。この集計結果は、同チームがまとめた検討内容（案）と合わせて5月3日（火）の教区評議会2022年度総会で報告され、その後6月13日（月）教区顧問会の中で今後の「大きな方向性」として承認された。集計結果と決定事項は以下の通り。

1．アンケートの結果報告【回答者数：112名】

①カトリックセンター諸機能の今後について

選択肢	回答者数	割合
ア 現在地で確保（建て替えまたは大規模改修）	37名	33.0%
イ 現在地からの移転（大司教館や小神学校の活用）	63名	56.3%
ウ その他／複数回答	7名	6.3%
エ 無回答	5名	4.5%

②長崎カトリック神学院（小神学校）の今後について

選択肢	回答者数	割合
ア 現在のまま、小神学校を単独で継続	8名	7.1%
イ 現在地で規模を縮小し、余った面積を他用途に転用	66名	58.9%
ウ 小神学校を他に移転し、建物を他用途に使用	24名	21.4%
エ その他／複数回答	9名	8.0%
オ 無回答	5名	4.5%

③カトリックセンターの建物・土地の取り扱いについて

選択肢	回答者数	割合
ア 現有機能を維持するための大規模改修	7名	6.3%
イ 新たな用途活用のための建て替えまたは大規模改修	31名	27.7%
ウ 第三者に賃貸して収益を確保	34名	30.4%
エ 売却	17名	15.2%
オ その他／複数回答	17名	15.2%
カ 無回答	6名	5.4%

2．教区施設統廃合検討チームでの「大きな方向性」の決定

2022年6月13日 教区顧問会で承認済み

① 教区本部事務局を大司教館に移転する方向で検討する。
② 会議機能は、既存の大司教館・小神学校・浦上教会施設の利用を検討する。
③ 上記①と②について、移転の具体的な検討は今年度1年かけて行う。
④ 小神学校の余剰面積については、引退司祭施設の可能性を含め、トビア会と連携しながら検討する。
⑤ 小神学校については、召命について考える部会を立ち上げ、教区一体となって真剣に考えることを、大司教に進言する。
⑥ カトリックセンター跡地については、専門家を交えた実行委員会を立ち上げ、10年先を目途に、福音宣教に資する目的のための活用法を検討していく。

大分教区

森山司教 叙階と着座

温かい雰囲気に包まれる中、あいさつする森山司教（大分教区提供）

7月3日（日）14時から大分市のJCOMホルトホールで、4月5日に教皇フランシスコにより大分教区司教に任命されたスルピス森山信三司教の司教叙階式・着座式が行われた。

主司式は長崎教会管区の中村倫明大司教が務め、駐日教皇庁大使レオ・ボッカルディ大司教の他、菊地功大司教（東京）、前田万葉枢機卿（大阪）、高見三明名誉大司教ら司教団が共同司式した。新型コロナウイルス感染症対策のため参列者は制限されたが、会場に集まった司祭団、修道者、信徒の代表者らと共に、ライブ配信を視聴する人々も喜びを分かち合った。

中村大司教は説教の中で、この日の朗読箇所（ヨハネ10・11－16）「良い羊飼いは羊のために命を捨てる」を引いて語り、「これからの司教職の中で関わっていく人々のために、命までも与え奉仕していける幸いな司教となれるよう」祈りを呼び掛けた。

聖体拝領後、大分教区管理者の山下敦師が、司教・司祭団、修道者、信徒らに向けてお礼のあいさつを述べ、前任の浜口末男司教が亡くなって1年半の間、新司教を待ち望み、そして与えられたことに謝意を表した。続いて、教皇大使ボッカルディ大司教が日本語で祝辞を述べ、「スルピス森山司教様、あなたは決して一人ではありません。司祭や信者たち、彼らこそあなたの新しい家族です」と語り、人々と対話し、共に歩んでいくよう励ましの言葉を贈った。また、司教団代表のヨゼフ・アベイヤ司教（福岡）、司祭団代表の吉田 繁師（大分）、信徒代表の若山治憲さん（南宮崎教会）からも祝辞が送られた。

最後に森山司教があいさつし、司教任命を聞いた時に大きな責任を感じたものの「大きな計り知れない神様からの恵みなのだ」と言われた言葉に救われた気がしたこと、読み直した第2バチカン公会議の公文書の中に、司教は「魂の世話をする人」とあり、「今までやってきたことなので、できるかもしれない」と思うようになったことを分かち合い、自身への祈りを願った。モットーは「わたしは傷ついたものを包み、弱ったものを強くする」。

教区司祭の黙想会

アベイヤ司教の講話から気付き

2022年の教区司祭黙想会が、福岡教区のヨゼフ・アベイヤ司教を講師に迎え、6月14日（火）から17日（金）まで4日間の日程で行われた。

多くの司祭はカトリックセンター会場に直接参加したが、佐世保・上五島・下五島地区ではリモートでの参加を選ぶ司祭もいた。アベイヤ司教は講話ごとに聖書の箇所をいくつか選び、司祭たちが聖霊によって「気付き」を与えられるよう、導いた。

その一つに、「最後の晩さん」を例に、食事の途中でイエスが弟子たちの足を洗う様子を細部まで描写している点に触れ、「足を洗った」で済む出来事をここまで描くのは、弟子たちをこの上なく愛しておられたからであり、教会が、人類の前でひざまずき、人類を生かす存在となる使命があることが読み取れると指摘した。

最終日、中村倫明大司教の講話があり、長崎教区が目指す「参加し、交わり、宣教する教会」と7年前の教区シノドスの提言を引き継いでいきたいと表明した。その後、感謝のミサをささげて終了した。司祭の一人は、「（アベイヤ司教の講話から）いくつもの気付きが与えられ、派遣された場でより熱心に奉仕する力を得た。黙想を通して、できること、しなければいけないことを各自があらためて意識する機会となった」と語っていた。

お知らせ

〈殉教祭など中止〉

毎年9月に行われている大村殉教祭（長崎北地区）、聖トマス西と十五殉教者記念ミサ（長崎南地区）は、今年も新型コロナ感染防止などの理由により中止となった。

新刊良書

★キリストにならう 三訂版
訳＝フェデリコ・バルバロ
待望の復刊。「第二の福音書」「中世最高の信心書」と謳われる本書は、キリスト教霊的書物の名作であり、聖書に次いで世界中の人が親しみ読んだ本。人生の旅の同伴者キリストとの親しい対話が生き生きとよみがえる。ドン・ボスコ社、税別1500円。

★平和と希望をつくる子どもたち マリア・モンテッソーリの教育
著＝江島正子
医師、科学者、実証主義者であった教育者マリア・モンテッソーリによる「宇宙的秩序」に基づく生命の教育法を、長年モンテッソーリ教育に携わってきた著者が丁寧に説明する。ドン・ボスコ社、税別500円。

カトリック長崎大司教区 生涯養成委員会主催　2022年度　カトリック講座のご案内

オンラインでも受講可 ズーム Zoom

土曜日 午後1時～2時30分　テーマ：教皇回勅『ラウダート・シ』『兄弟の皆さん』

	月　日	講　師	内　容
第1回	9月 17日	尾髙修一 師	ラウダート・シ　第1章・第2章
第2回	10月 1日	西田祐尚 師	ラウダート・シ　第3章・第4章
第3回	10月 15日	稲田祐馬 師	ラウダート・シ　第5章・第6章
第4回	10月 29日	中村倫明 大司教	兄弟の皆さん　第1章
第5回	11月 12日	山内啓輔 師	兄弟の皆さん　第2章
第6回	11月 26日	平本義和 師	兄弟の皆さん　第3章
第7回	12月 10日	岡 秋美 師	兄弟の皆さん　第4章
第8回	1月 14日	山本一郎 師	兄弟の皆さん　第5章
第9回	1月 28日	牧山強美 師	兄弟の皆さん　第6章
第10回	2月 11日	牧山強美 師	兄弟の皆さん　第7章・第8章

今年度の「カトリック講座」は教皇フランシスコの回勅を読み深めていきます。

◆場　所　カトリックセンター2階講堂
※新型コロナウイルス感染対策のため、定員になり次第締め切ります。
オンラインでの参加はこの限りではありません。

◆受講料　5,000円（全10回分）　＊聴講可能（1回1,000円）

◆申込先　カトリック長崎大司教区 生涯養成委員会 Tel 095-841-7731
Fax 095-841-7732　✉ cnsy.kouza@gmail.com

申込期限　2022年9月7日（水）　カトリック講座申し込みフォーム →

2022年度は講座開催期間を2期に分け、前期（4月～9月）『聖書講座』、後期（9月～2月）『カトリック講座』の順で開催しています。オンライン受講は随時受け付けています。詳細につきましては各小教区にお配りしている案内をご確認ください。

ご存知ですか？「福岡コレジオ」

「福岡コレジオ」をご存知ですか。「福岡カトリック神学院」（大神学院）入学に向けて準備する、大学などの学生や社会人経験者のための神学院です。長崎・大浦に開設され、福岡・浄水通に移転、さらに2022年の春から大神学院内に移設されました。

2人の新入生を迎え（写真＝4月9日入学式ミサの後に中村倫明大司教様と）、現在4人のコレジオ生と2人の司祭が共同生活を送っています。通学のため平日は5時30分から朝の祈りとミサ、6時15分から朝食、講義によっては帰院が20時前になる日もあります。

院内では聖書やカテキズムの手ほどきも行われ、主日には機会を見つけて小教区のミサに伺うようにしています。祈り、学び、みことばと食事を分かち合い、大笑いしたり辛さを噛みしめたりしながら毎日懸命に頑張っています。新たな同志をお待ちしています。

（福岡コレジオ）

召命のお恵みを願って

長崎カトリック神学院でミサ

5月29日（日）長崎カトリック神学院で「召命祈願ミサ」が行われた。神学生、志願生、関係者合わせて約30人が参加し、中村倫明大司教主司式のもと、召命のお恵みを願って祈りがささげられた。

大司教は、説教の中で「いろんな思いを抱えながら、皆さんのことを召命の歩みへと喜んで送り出してくれたご両親の愛と、同じく大切な存在としてこのように特別に召し出してくださっている天の父である神様の愛に日々感謝しつつ、お互いに祈り合いながら頑張っていきましょう」と励ましの言葉を掛けた。ミサ後は場所を移してささやかな茶話会が行われ、互いの交流を深めた。

養成者は、「新型コロナの影響もあり、今回は2年ぶりの召命祈願ミサとなったが、『神学生・志願生のため』『新しい召命のため』に、状況がゆるせば年に2回は行いたいと考えている」と語っていた。

2020年
〝被爆75年から
5年間のチャレンジ〟
https://nuclear-free.net/
核なき世界基金

報告

中村大司教様と青年の交流会

教区青少年委員長　川端 志範

6月19日（日）午後3時から大司教館体育館で「中村大司教様と青年の交流会」が行われました。例年行われていた「高見CUP（カップ）」の後継行事として開催されたこの交流会には、司祭と青年合わせて49人の参加者が大司教様のもとに集まってくださいました。

今回の参加者には海外からの留学生の方も多く集い、ソフトバレーボールを通して、小教区だけでなく国籍の枠を超えた交わりをもつことができました。大司教様には個人賞を選び授与していただき、競技中は青年一人ひとりが名前を呼ばれ、表彰式には記念品を手渡され喜ぶ青年の姿も見ることができました。スポーツ後はカトリックセンターで食事会が催され、楽しい時間をともに過ごすことができました。

大司教様から「青年たちがこれからもお互いに力を合わせていけますように。また皆さんで会いましょう」と青年たちへのエールをいただき、参加者にとって喜びの時間となりました。この交流会のため、神父様方をはじめ多くの方にご支援をいただきました。紙面を借りて御礼申し上げます。今後とも青年たちのために、お祈りと応援をよろしくお願いします。

みことばにふれて 192

稲田 祐馬 神父

（長崎教区司祭、福江教会）

己の如く隣人を愛せよ

（マルコ12・31）

神学総合試験と助祭研修のために、東京に行った時のことです。その期間の終わりに、労をねぎらうために、同期の一人とそば屋で夕食を共にすることにしました。江戸でそばを食べるということと試験終わりの高揚感で浮き立ちながら、席について注文を終え、ふと壁の方を見ると、妙に見慣れた豚の絵が飾ってありました。なぜ見慣れているのか記憶を探りながらまじまじと見、「しっぽも一役」と一言添えられたその絵には署名もあり、どうやら永井隆と書いてあるようでした。永井博士の絵だ！と、たまらず女将さんになぜこの絵が飾ってあるのか尋ねてみると、身内が歌謡曲『長崎の鐘』の関係者でその方からのもらい物ということでした。学科の総決算を終え、東京の数あるお店の中から選んだところで永井博士の絵と出会ったのは何とも運がいいというか、奇妙な気持ちになったのを覚えています。

NHK朝の連続テレビ小説『エール』では、永井博士の著作『長崎の鐘』をモチーフに作られた同名の曲の作曲者である、古関裕而さんが取り上げられました。私は主任神父様が見ている時に、たまに見るぐらいでしたが、なぜ題名が『エール』なのだろうと疑問に思っていました。調べてみると、永井博士をモデルにしている永田医師が古関さんに「希望を持って頑張る人にエールを贈ってくれんですか」と言う場面があり、軍歌、戦時歌謡を手掛けたことに対して贖罪の思いを抱いていた古関さんはその言葉に励まされます。戦争と原爆により、どん底を体験しながら、神さまのみ旨について思いめぐらし続けた永井博士の言葉の力を思わせるシーンです。実際、戦後病床にあった永井博士は、その著作で信仰・希望・愛を語り、浦上の人そして日本の苦しんでいる人を励まし続けたのはみなさんもご存じのとおりです。

東京の教会の青年たちが、長崎旅行に来た際に、一緒に観光したことがあります。原爆資料館への訪問が計画されていて、どうせならと思い、永井博士の如己堂を案内しました。私は少し寄っていくつもりだったのですが、想定以上に彼らが永井隆記念館で見はまってしまい、とうとう原爆資料館に行く時間はなくなってしまいました。私は、やってしまったなぁと申し訳ない思いでしたが、青年たちは、「来れてよかった」と、「稲ちゃんがいなかったら来てなかった」と言ってくれました。私への慰めもあったでしょうけど、しかし、永井博士の語る希望が彼らの心に響いたのでしょう。

『長崎の鐘』は永井博士のお子さんの、誠一（まこと）さんと茅乃さんが朝の浦上の鐘の音に跳び起きて、お告げの祈りを唱えるシーンで閉じられます。なんと美しい、希望にあふれた情景でしょうか。胸を打たれると同時に、祈りをおろそかにする自分を恥じます。そして、浦上の鐘は今日も鳴ります。

短信

〈堅信式〉

6月26日（日）城山教会で中村倫明大司教の司式により堅信式ミサが行われ、中学生7人と高校生2人の計9人が堅信の秘跡にあずかった。

感謝

―香典返し―

長崎大司教区
●レデンプトリスチン長崎修道院様

右の方からご寄付・ご芳志を賜りました。お礼とご報告を申し上げます。

マリー・ヨゼフ 小島やす子修道女

（厳律至聖贖罪主修道女会）

6月4日逝去。92歳。1929年8月19日京都府生まれ。63年入会。66年初誓願、73年荘厳誓願。長年、クッキー作りの仕事をし、責任者として務めた。書や絵も出来、カード作りにも励んだ。2016年に誓願50年をお祝いし、ご兄弟と喜びを分かち合った。

高齢になり体が弱くなったため特養に入居。肺炎などで入退院を繰り返し、退院したが衰弱し、安らかに御父のみもとに召された。修道生活56年。

葬儀ミサ・告別式は6月6日、レデンプトリスチン長崎修道院で行われた。

フィロメナ 山下シヅミ修道女

（お告げのマリア修道会）

6月26日逝去。89歳。1932年佐賀県生まれ。53年三井楽修道院に入会。60年初誓願、71年終生誓願宣立。

大浦の共同体で10年間、その後、黒崎、奈留などで事業所の調理師として働いた。また大司教館や神学院での奉仕を通して、司祭や神学生を支え、豪快かつ細やかな心遣いで奉仕した。

三井楽修道院に戻って約30年を過ごしたが、心不全などの病気と闘い、入退院を繰り返しながら、いただいた食に関するタレントを生かして共同体に奉仕した。

葬儀ミサ・告別式は6月28日、三井楽教会で行われた。